

議 事 録

件 名	第 3 1 回児童虐待防止対策委員会	
日 時	令和 6 年 4 月 2 5 日（木） 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0	
場 所	久留米市役所 1 6 階会議室	
出席者	委 員	吉岡委員長、佐田副委員長、早川委員、武藤委員、重永委員、麻生委員、御厨委員、田中（幹雄）委員、溝口委員、竹下委員、乙丸委員、梶島委員、野口委員
	事務局	（家庭子ども相談課）緒方補佐、佐藤補佐、佐々木 （安全安心推進課） 豊福主幹、新村補佐、古賀、田中
欠 席 者	田中（浩之）委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会 セーフコミュニティと児童虐待防止対策委員会について 2. 協議事項 （１）2023(令和５)年度実績及び2024(令和６年)度方針について （２）認知度向上・取組の裾野拡大について （３）合同対策委員会について 3. その他 （１）令和６年度セーフコミュニティ会議等スケジュール 4. 閉会	
事務局 （安全安心推進課）	【開会】 ・委員長挨拶 ・委員自己紹介 【傍聴者の確認】 ・傍聴者なし 【セーフコミュニティと児童虐待防止対策委員会について】 ＜質疑なし＞ 【協議事項（１）】 2023 年度実績及び 2024 度方針（案）について ＜質疑応答＞ （５ページ ２－①新生児訪問事業の地域連携 長期評価について） ①の児童相談の件数に対して、②の児童虐待の対応件数は、毎年ほぼ１割程度の数字になっている。これはおよそ１割を数値目標として行われている結果なのか、それとも偶然か。	
委 員 ①		
事務局 （家庭子ども相談課）	①は実績の数値である。2022 年の実績は①児童相談件数 4,947 件、そのうちの約 1 割が虐待対応件数となっている。例年 1 割くらいとなっている状況ではあるが、実績であり、目標に掲げているわけではない。	

議 事 録

委 員 長	協議のポイント「父親への啓発についての工夫（アプローチ方法）」や「児童虐待の認識の向上のための窓口の周知を図る取り組み」等についてのご意見をいただきたい。 各関係機関でできる取組等があれば意見をお願いしたい。
副 委 員 長	私たちは赤ちゃん訪問をし、各地区で子育て支援の一環として子育てサロンをやっている。主任児童委員はその後の幼稚園・保育園との関わりが今のところあまりない。その後の小学校・中学校との関わりは今重点的にやっているところ。幼稚園・保育園の時の虐待がニュースになることも結構ある。また、朝から尿がいっぱいで重くなったオムツをしてくる子がいるという話も聞く。 私たち主任児童委員は、妊娠から１８歳までを対象として活動している。一部訪問などをしているところもあるものの、幼稚園・保育園との連携が少ないため、２～３年間の関わりが欠落してしまっていて、小学校に入学した時に、幼稚園・保育園の時点で気づければと思うようなこともたくさんある。 幼稚園・保育園の子どもがいる世帯との関わりについて検討していただきたい。
委 員 長	各幼稚園、保育園協会の方から意見があるか。
委 員 ②	具体的にはどういった関わりのことか。
副 委 員 長	例えば、生まれた時からずっと関わりがあったとしても、途中で関わりがなくなり、小学校で不登校になっていたり、新しい問題が出てきてしまっていたりすることがある。幼児期の段階から少しずつ地域として関わりを持てたら、親の姿が見えてくるのではないかと思う。そうした関わりを切り開いていきたい。今、要対協（要保護児童対策地域協議会）も含めて、小学校で学校連絡会をやっている。幼稚園・保育園の中でも連絡会のような取り組みができないかということをご提案したい。 地域として見守り、相談を受け、助言ができれば良いと思っている。
委 員 ②	幼稚園・保育園で、何か家庭への介入が必要な場合や、幼稚園・保育園だけではサポートが不足するといった場合に主任児童委員や民生委員の方へ連絡するパイプがあれば良いということか。
副 委 員 長	そのような子どもに対しては、家庭子ども相談課等も関わっていると思う。連携がすごく大事なことだと思う。
委 員 ③	通常保育でお預かりするお子さんは、基本的に、保護者が就労していることが前提なので、就労に加え送迎があり保育時間が長い。例えばアザがある時などは、原因等を聞く。疑いを含む虐待のケースは家庭子ども相談課も把握しており、連携している。私たちは保護者と毎日顔を合わせるので、園の中で保護者へ声掛けをすることはできている。 先ほどの提案は、保育園や幼稚園に来ていない子どものことか。

議 事 録

副 委 員 長	幼稚園・保育園での初期段階の対応の仕方、例えば家庭子ども相談課も児童相談所も関わっている家庭なら、地域の中での見守り活動にどのようなことができるのかを、連携しながら、それぞれが活動していく必要があると思う。
委 員 長	各園が主任児童委員とのパイプを作ってほしいということか。
副 委 員 長	そのとおり。
委 員 ③	それは保育園に毎日来る保護者だけではなく、各地域の未就園児のいる家庭に対して働きかけをしていくということか。
副 委 員 長	働きかけとなると、少し語弊がある。個人情報観点から、未就園の家庭に働きかけていくということは難しいと思う。だから、諸団体が情報を共有しながら、何ができるのかということを模索しながら活動することが大事ではないかと思う。
委 員 ②	現状では、地域や園だけでの対応が難しい時は家庭子ども相談課に連絡している。逆に、家庭子ども相談課に泣き声の通報があった際、園の近辺だが心当たりがあるかといった問い合わせに回答するなどの連携はしている。 必要に応じて自分たちでできることはやっており、できない部分は家庭子ども相談課へ連絡している。幼稚園・保育園と主任児童委員や民生委員とが直接連携するのがいいのか、家庭子ども相談課が中継して主任児童委員や民生委員へ連絡する方がいいのかというところ。 （委員②の幼稚園は）西国分校区にあるが、就園児は西国分校区の子だけではない。 年度初めに保健師の校区担当一覧が送られてくる。例えばその一覧に民生委員や保健師など関係機関の校区担当を載せたり、担当への連絡の仕方などを行政に相談したりするといったことはできるかと思う。 だから、直接繋がるというよりは、間接的にでもどのようにネットワークを作っていくか、どのような仕組みで久留米市はその子どもと家庭の虐待防止のサポートをするのか、というものがあるといいと思う。
委 員 ④	傷痕があったり、養育環境に問題がある家庭であったり、様々あると思うが、幼稚園・保育園の中で工夫して声掛けをしていただいて、まず園の中で対応していただいているケースはすごく多いと思う。そういった中で本当に心配だと思われる家庭であれば、家庭子ども相談課へまたは児童相談所へ連絡をいただき対応させてもらう。その中でも虐待ケースと思われるものは要対協（要保護児童対策地域協議会）という地域で連携して対応できる機関がある。守秘義務もあり、情報共有もできる場になっている。先ほど言われたように、いただいた情報を直接主任児童委員とやり取りをする関係性もあるかとも思うが、私たちが要対協関係者会議を開催し、園や主任児童委員にも参加してもらうという形で情報交換をする方法もあるのではないかと考える。 個別のケースに応じて、情報共有の仕方や範囲など、その在り方も含めて考えることはできると思っている。

議 事 録

副 委 員 長	長期的に考える必要があると思う。子どもたちの育ちを地域で見守る者としては、必要な取組だと思う。
委 員 長	小学校とは連携できているということなので、工夫しながら切れ目のない支援に繋がるような連携を家庭子ども相談課が中心となって考えていくと良いと思う。 他に意見はあるか。
委 員 ③	新生児家庭への同行訪問（赤ちゃん訪問）は、良い取り組みだと思う。 保育園の見学に来るお母さんのお話を聞くと、孤立している人が多いと感じる。夫婦の両親がどちらも遠方に住んでいて、親戚もいない家庭が増えている。母親が病気になった時、援助してくれる人はいないと答える人が多い。 久留米市のホームページに子育て支援の情報がたくさん掲載されていることを教えている。子育て支援の情報をまったく利用していない保護者も多い。保育園・幼稚園に未就園の親子にはもっと子育て支援情報を知ってほしいし、啓発が必要。赤ちゃん訪問はとても良い取組で、訪問時に久留米市のいろいろなサポートがあることを伝え、しっかり利用してもらえると安心だと思う。
委 員 ⑤	妊娠して最初に母子手帳をもらう時に、保健師が久留米市の子育て支援について説明してくれる。母親は、聞いた情報がその時すぐには必要でないと記憶に残りにくいようだ。赤ちゃん訪問の際に、保健師が iPad を使って、分かりやすく作り直した資料を用いて説明しているのも良い取組だ。訪問時に保健師からくるんのことを聞き、それで知ったという人も多い。 くるんでは、父親の利用がかなり多い。夫婦で来られることも多い。父親は、実際にほかの父親が育児をしている姿を見ることで、子育てへの敷居が低くなり、父親自身がやるのが当然、せっかくの子育てだから今のこの時期を大事にして子どもと関わろうとする父親も増えているのではないかと思う。 早川会員も言われたように、父親だけで来た人は大変そうに見える。母親の大変さもあるけれど、父親、祖父母の大変さもそれぞれにある。ちょっと愚痴が言えれば、それだけでも気持ちの整理ができると思う。くるんは、「地域」ではないかもしれないが、息抜きができる場として使ってもらえたらと思う。
委 員 長	（令和6年度 Hello!くるベビーBOOKについて） これは、母子手帳を渡す時に配っているハンドブック。父親や家族向けの内容は、少し載っている。もう少し詳しく載せてもらう、あるいは必要な情報をコンパクトに載せてもらうと良いと思う。色々な情報が多すぎて取捨選択ができない保護者へは、赤ちゃん訪問時にその方に合ったものを提案してもらうのが良い。保健師には大変な労力となると思うが工夫してもらえると良い。

議 事 録

委 員 長	(プレパパママ教室について) プレパパママ教室には大抵夫婦・パートナーと二人で一緒に来ている。昨年度からファミリーサポートセンター(ファミサポ)もプレパパママ教室に参加している。父親は、保健師やスタッフに言われて気付くこともたくさんある様子。参加者は第1子妊娠中の人が多いので、こういう集まりの場で父親への啓発に力を入れると良いのではないかと。限られた人数ではあるかと思うが、プレパパママ教室に来る人は比較的子育てに積極的な保護者だと感じる。 こういった教室に参加していない、見えない家庭、孤立している家庭にどのように接していくか、支援に繋げていくかということが課題だと感じている。 【協議事項(2)】3回目の認証取得に向けた本審査について 認知度向上・取組の裾野拡大について
) 委 員 ⑥	<質疑応答> (セーフコミュニティの出前講座について) 地域のコミュニティセンターの学級に補助金が出ていると思う。高齢者学級、女性学級など。そういった学級に、例えば補助を受けるためには出前講座を受けてください、事業計画に入れてくださいと要請するのはどうか。補助を出す係と連携して、強制ではなくお願い要請として出してもらえれば、年間計画を組むときに、セーフコミュニティの出前講座が選択肢のひとつになるのではないかと。 地域コミュニティ課と相談してもらえたらと考える。時期的には、3月までに次年度の計画をたてるので、時期も考えて話してもらえればと思う。
委 員 ③	(くるめ「まちカメ」ボランティアについて) ポジティブな取組だとは思いますが、監視されているというような気もする。もう少し説明をお願いしたい。
事 務 局 (安全安心推進課)	趣旨としては、セーフコミュニティ：安全安心のまちづくりを知ってもらい、一緒に関わってもらう人を増やしたいというねらい。現在、車にもドライブレコーダーが装備されていたり、お店にも防犯カメラをつけたりしているところが少しずつ増えているという状況。くるめ「まちカメ」ボランティアに登録した人にはメールで、例えば春の交通安全運動実施中とか、ニセ電話詐欺が増えているといった安全安心に関わる情報を提供していく。メールを読んだ人が周りの人へ声掛けしてもらおうといった取り組みを考えている。 交通事故等が発生したときに、交差点に情報提供依頼の看板が設置していることがある。あの看板のように警察からの「〇〇地区の〇時～〇時に通った車はありませんか」といった情報提供依頼を、市を通じてメールで発信することで、もし該当した場合は警察へ任意で提供してもらえないかと考えている。決して監視するということではなく捜査協力。普段生活している中で、もしもそういった場面に出会った場合は情報を提供してほしいということ。

議 事 録

委 員 長	登録することで、そういった情報提供について意識を向けてほしいということか。
事 務 局 (安全安心推進課)	カメラを使うということは補助的なもので、まずはセーフコミュニティを知ってもらう入口、啓発のひとつと考えている。このためにドライブレコーダーをつけてほしいということではない。普段していることがもしかしたら何かの案件・事件の解決の一端になるかもしれない。
委 員 ③	啓発、もしくは抑止力となるか。
事 務 局 (安全安心推進課)	まずは啓発。知ってもらうことが大きな目的。 カメラを使うことにより抑止的な役割があるかもしれないが、実際の機能や効果としては抑止力というまでのものではないかと思う。 全国的には、警察と企業等が協定を組んでやっているところもある。久留米市では協定ではなく、任意の、市民の方々の気持ちの繋がりで取組といったやり方をしていく。
委 員 ③	他のセーフコミュニティの認証を取得している自治体でも取り組まれていて、成果があがっているから取り入れるということか。
事 務 局 (安全安心推進課)	具体的な成果というところまでいっているかどうかは不明だが、他の自治体でも実施されているという情報はある。
委 員 長	まだ使ってみないと分からない部分があるというところだろうか。
委 員 ③	カメラというと、監視されているのではというところに個人的には葛藤がある。
事 務 局 (安全安心推進課)	監視を目的とした取組ではないというところは、これからもしっかりと説明していく。
委 員 長	他に意見はないか。 先ほど、校区まちづくり連絡協議会の委員から意見が出たように、各団体として取り組めることはないか。意見があれば、調査票へ記入して後ほど提出をお願いしたい。
委 員 ⑤	【協議事項（３）】 合同対策委員会について <委員から一言ずつ> 合同対策委員会では、他の対策委員会の委員との横の繋がりができたり、自分たちがどういった活動をしている団体か等を周知できたりする場になると良いと考える。

議 事 録

委 員 ⑦	セーフコミュニティの良いところは、強制ではない、データに基づいた達成目標があることだと思う。セーフコミュニティの取り組みは、2年前の合同対策委員会出席時には各々の心持ち次第の取組かと感じたが、今日の資料には根拠や原因が明確にコンパクトに書かれていたので安心した。
委 員 長	朝から夕方までの1日開催となると、すべての枠への参加が難しい人もいると思う。 2年前は同じ対策委員会の人と同じテーブルだったため、やりやすかった。昨年はいろいろな対策委員会の委員が入り混じったテーブルだったため、自己紹介を兼ねて自分の所属団体の活動や委員会の取組を伝えることができ、有意義な場となったと感じた。
副 委 員 長	合同対策委員会では、それぞれの委員会の意見を聞けるというのが良かった。しかし自分の所属を紹介するにとどまり、児童虐待防止対策委員会が何をやっているのか、個人がどんな関わり方をしているかを周知するとまではできなかった。
副 委 員 長	(くるめ「まちカメ」ボランティア事業について) くるめ「まちカメ」ボランティアのステッカーの配布先を、ドライブレコーダーがある人だけに限らず、セーフコミュニティに関わっている人すべてに配ると、もっと活動が広がるのではないかと思う。
委 員 ⑧	警察で取り扱う児童虐待の数と児童相談所で認知される数はどうしても開きがあるかと思う。警察は、児童虐待の通告により出向いていく。父親は嫉の範囲としての認識で子どもを叩いたというが、叩くことも虐待になるのだと案件ごとに説明をしていくことが虐待の防止につながる。防犯の啓発とともに、重大な事案に発展しないように一つ一つの案件ごとに警察ができる虐待防止活動に取り組んでいる。
委 員 ⑨	母親よりも父親の方が叩くことを嫉だと思っている人が多く、叩くことが虐待だと認識していない人がいる。予防はとても大事である。保育園や幼稚園、小学校などで、叩くことは暴力だということを、意識づける機会を増やしていくことが予防につながる。
委 員 ⑥	子どもの虐待と子どもの人権は同一ではないかと思う。46校区にそれぞれに人権協があり、また小・中学校にも人権問題協議会がある。各協議会の場で子どもの虐待についても話してもらうことが必要だと感じている。
委 員 ①	現在、小・中学校のPTAでは、活動に参加しないという意思を持つ保護者もあり、活動の維持が難しくなっている。保護者は子どもに一番近い存在であり、また虐待の当事者にもなりえる存在でもある。本来はPTA活動の場で啓発していきたいが、対面での集まりや、団体の繋がりを嫌う人も増えてきている。このような中で若い父親母親に一番響くのがSNSだ。SNSを活用するというアプローチも必要だと考える。

議 事 録

委 員 長	全体を通して何か意見があればお願いしたい。
委 員 ⑦	(子育て応援動画紹介) 要点を絞って10分程度で分かりやすく子育て応援動画を制作しているので是非ご覧いただきたい。
委 員 ④	(孤立防止について) 委員の皆さんから意見をいただいたとおり、孤立防止はとても大事だと考えている。データのにも0～2歳児は就園割合が低い。そういった家庭に主任児童委員と保健師とが連携して訪問する取り組みはとても大事だと捉えている。孤立し、情報がなかなか届かない家庭もあるが、訪問した際に丁寧にその家庭にあった情報を提案していく。
委 員 ④	(オレンジリボンについて) 昨年、啓発の取り組みとして、市内19か所にオレンジツリーと相談カードを設置し、オレンジリボンって何だろうと関心を持ってもらうところから活動をはじめた。今年はさらに活動範囲を広めていきたいと考えているため、オレンジツリーを設置できる所があれば教えていただきたい。
委 員 ④	(子どもの権利について) 現在、全小学校の4年生を対象に、子どもの権利を学ぶということを進めている。その結果、子どもからの相談件数も少しではあるが増えてきている状況。効果的な取組であり、子どもに権利を教えるのは大切なことだと感じている。今年からは一部の園で未就学児に対しても取り組みを始めている。 保育園・幼稚園、小学校、中学校と繰り返しSOSの出し方を学び、権利意識を高めていく、そして子どもからも発信できるような地域になると良いと思う。 委員⑦からも報告をお願いします。
委 員 ⑦	(父親への啓発について) 小学校や中学校のPTAなどで話をする時は、父親の参加はとても少ない。だから子育て応援動画という動画の手法も取っている。しかし、保育園・幼稚園の行事で話をする時は、父親の参加率がとても高い。子どもの発表会と同日のプログラムだとさらに参加者が多い。行事に参加する父親は能動的に話を聞き、今は父親自身の子ども時代とは違うという認識もある。前向きな質問や相談もあり、柔軟な人も多いと感じる。一方で母親たちだけをフォローしていることに面白くないと感じている父親達の意見も聞こえてくる。父親向けのものもこれから必要だと思う。
	【その他】 令和6年度セーフコミュニティ会議等スケジュールについて 説明 ＜質疑なし＞ 【閉会】

